



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所 (二日町)
在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

10
Vol 353
2021/10.15

もえぎ

青木日之 / さん書



初秋の五十沢(山谷～三国川ダム)
撮影地:南魚沼市山谷
撮影者:小林 順正

第13回

さくり温泉健康館

秋の感謝祭

令和3年 10月31日(日)

お祭り:10時～14時 券売りは17時まで

シート6回券 ➡ **1,800円** (税込み)
2,300円(税込み)を で販売します!!
(お一人様10シートまで)

回数券予約受付中

- ・前金にて承ります。
- ・引換えは11月1日～12月末まで回数券と交換致します。



当日は
マスク着用で
お願い致します!

さくり温泉健康館 025-774-2802

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク	2
漫画 黒岩卓夫一代記	3
在宅医療が広がらなかったのは何故か? ー人生会議ーを通して「エンディングノート」	
シンポジスト 感想	4~5
テイクアウトランチ	6
みんなの冷蔵庫	7
インフルエンザ予防接種のお知らせ	8



在宅ケアを支える診療所・ 市民全国ネットワーク 第26回全国の集い in長崎おおむら2020

萌気会理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



長崎県大村市

コロナにより1年延期となった上記大会は先月19日、20日の2日間に渡り開催された。新型コロナ蔓延によりオンライン開催となり残念ながら現地に行くことはできなかった。長崎県大村市は人口約9万5千人。新潟県の新発田市の人口に近い。長崎空港（**世界初の本格的海上空港**）、高速道路ICがあり、来秋には新幹線大村駅が誕生する予定。空港、高速、新幹線の三種の神器が揃う市は政令指定都市以外には無い。医療は、3次救急病院と2次救急病院が一つずつしかないため機能分担がしっかりできている。巨大な県立図書館が2年前に完成。また春は綺麗な**オオムラザクラ**が咲き誇る。住みやすさ満点の**コンパクトシティ**を力強くけん引するのは元看護師の38才園田裕史市長である。人口が現在も増え続けているのは実に羨ましい。



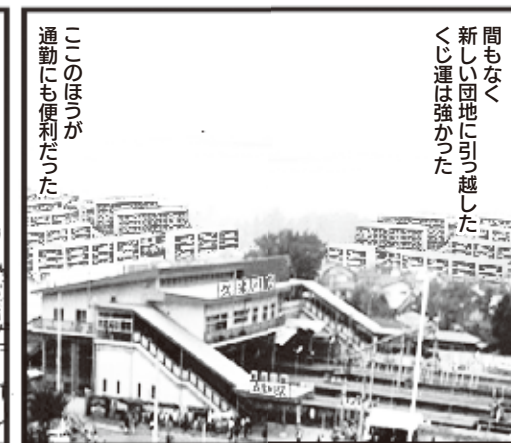
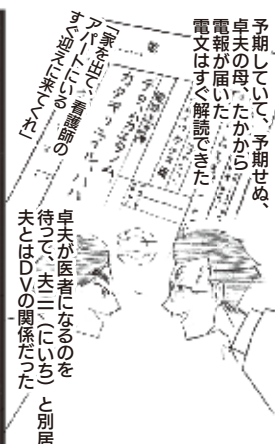
メインシンポジウム

『**在宅医療が広がらなかったのは何故か？**』をテーマに4人のシンポジストが『**在宅ケア**』の現状および今後への課題について講演した。シンポジストの主な提言を紹介する。全国ネット前会長**荻原実**医師（千葉県の医療法人実幸会理事長）は、『都市部では在宅医が豊富だが、過疎地域では不足している。在宅医療をしっかりとやっている診療所が一つもない市町村が未だにある。24時間対応の負担を軽減しないと在宅医療は広がらない。地域差を無くすために政策の制度設計を変える必要がある』と述べた。**辻哲夫**元厚労省事務次官は、『多くの医師は

在宅医療を経験したことが無いし、夜間対応などの負担が大きく本気でやる気がない。在宅医療の良さを住民が認識していない。高齢世帯が多いにも関わらず介護サービス体制が不足している。今後のさらなる高齢化に伴い急性期疾患が減り、慢性期疾患が増え、慢性期疾患の受け皿となる在宅医療のニーズが高まる。このことを全国の医師が知る必要がある。在宅医療を行わない診療所に対し報酬上のペナルティを課すなどの対策が必要。医師が在宅医療を学ぶ体制確立が必要』と述べた。**大石佳能子**（株）メディヴァ社長（医療・介護系事業のコンサルティングなど事業は多岐に渡る）は、都道府県別の在宅医療の多寡を、看取り加算数などから数値化した。新潟、長崎はどちらも在宅医による自宅での看取りが少なく病院死が多い18県に含まれている。在宅医が多く在宅看取りの多い6都県は東京、神奈川など都市部が殆どで、在宅看取り文化の広がりには地域差があることが示された。大石さんは、『在宅医療を拡げるためには、在宅医の高齢化が進む中、地区医師会による夜間往診体制の整備が必要。また、医療・看護・介護では手の届きにくい部分（買い物、生きがい、認知症対応、見守りなど）に非公的サービスを届ける必要がある。地域の社会資源を有効に利用することが大切』と述べた。全国ネット名誉会長**黒岩卓夫**医師の講演内容は別頁参照。

何故在宅医療が広がらないか？医療過疎地域であるこの魚沼では在宅医が少ないなど在宅医療資源が乏しいことも一因であるが、一番の要因は、地域住民が在宅医療・介護の仕組みや価値を十分理解できていないことではないかと私は思っている。地道な啓発活動により『在宅看取りの文化』を醸成することが大切である。

第13話 結婚生活、 双子生まれる



当時“金の卵”として地方から就職した人たちが、なかには四畳半ひと間4人家族が引越してくる人もいた。卓夫の両親は共に再婚だったが、育ち、性格の違いから仲は悪かった。そして夫の暴力。子としては辛いがまんだった。母たかは決意固く永久別居となった。

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク 第26回全国の集い in 長崎おおむら 2020 を終えて

長崎おおむら大会 シンポジウム「第一部」 「在宅医療が広がらなかったのは何故か？」

ー人生会議ーを通して「エンディングノート」をつくろう

萌気会 会長・相談役 黒岩 卓夫

私は“さて”と戸惑った。“なぜ”とは思っていたが、真正面から検討し、反省することはしなかった。

そこで萌気会の中心的メンバーと話し合ってみた。皆ピンとこない。やっぱり考えていなかった。そこで私は心を入れ替えて考えた。諸条件を取り上げ、本当にどうなのかと削り込んでみた。すると少しずつ見えてきた。

その結論的な答えは2つに絞られた。たとえば「家族の意識」その壁をどうしたらよいかと考えてみればわかりやすい。

1、在宅医療の本当の価値を考え、それを日々深めてきたかどうか。価値が深まらなければ、その仕事は拡充しない。要するに在宅療養生活と看取りの価値である。

2、高齢者(老人)の自立への意識を高め、育て支援してきたか。当事者である高齢者の自立なくして、在宅医療の継続や看取りは難しい。そのためにはまだ自分の考えが伝えられるうちに、家族と共に「人生会議」をつくり「エンディングノート(エイジングノート)」を作成すること。家族と、仲間と、地域でつくる運動をすべきだった。その成果は10年かかるものだと思うがこれから始めたい。

そしてこの運動の原点は、老いとは死の自然の姿は何かを問い直すところにある。誤解や錯覚は排除しなければならない。

東京都老人総合研究所の柄澤昭秀先生は「人間の老化の究極の姿が、認知症でもなければ寝たきりでもないことは確かである。」また、国立長寿医療研究センターの三浦久幸先生は「人間は歩けなくなり、しゃべられなくなり、食べられなくなって死を迎える」と述べている。この2つの現実

は人間の生死の自然観で当たり前であるが難しい。

そして高齢者の居場所についても次の図式で考えている。

この図にあるように、高齢者として生活の核心は「安心」である。「安心」の基本は自分をとりまく人間関係である。

したがって在宅療養が絶対安心とはいえない。

最後に皆さんへのアピールを提起したい。

高齢者の求めるものは「安心」して暮らせること

・地域での安心の構造とは
居心地の良さー安心ー家族性
居場所の良さー仲間ー地域性
今日1日の満足ー希望ー精神性
↑
在宅医療

- ・高齢者(老人)は己を語り、地域・歴史を語ろう
- ・医療者は、在宅医療の価値を高め、在宅療養と看取りを語ろう
- ・誰でも65歳になったら、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)
- ー人生会議ーを通して「エンディングノート」をつくろう

これが認知症対応の最高の処方箋だ。



新型コロナウイルス感染症をのりきりたい

萌気園小規模多機能ホーム さくりの郷 介護支援専門員 岡本 さとみ

今回のテーマは

ちゃんと決めれば、自分の最後
～すべての人に最後はくる 地域で育む人生会議～

といった内容で開催されました。シンポジウムでは1995年に結成されてからのあゆみを再認識し今現在の課題があり、課題の解決策としての考え方を学んだように思います。

テーマにもある、人生会議(アドバンス・ケア・プランニング)は意思表示ができる元気なうちから、自分らしい最後をどう迎えたいか本人主体で身近な家族や知人、又は場合によっては関係支援者が話し合いを行っていくことです。エンディングノートも方法のひとつではありますが。もっと日常生活の中でごく自然に考えや希望を伝えられるようになれば、その人の望む生活、その人にとっての幸せとは何かが見えてくるのではないかと思います。

私自身、母、姉の看取りを経験して人生会議はできなかったことを後悔しています。

案外にタイミングは難しく、「縁起でもない・何でそんなこと聴く?」と答えるだろうと勝手に思っていました。

今回の大会に参加して改めて感じたことは、終末期だけではなく、その人にとっての幸せとは何かを理解し関係者全員で共有できる又は代弁できるケアマネージャーを目指し、その為には本人や家族は勿論、あらゆる立場の地域の方や職種の人々とのつながりを大切にしていきたいと実感しました。

又、研究発表についてはフルリモート方式といった初めての全国大会に参加させていただき貴重な経験をしました。ありがとうございました。



新型コロナウイルス感染症をのりきりたい
～小規模多機能事業所だからこそできた取り組みと課題～



小規模多機能ホーム さくりの郷
岡本さとみ

天気と認知機能について

萌気園通所リハビリセンター浦佐 理学療法士 山田 春樹



今大会に私は『天気と認知機能について』という演題で発表させていただきました。

発表時は、緊張のあまり原稿のどこを読んでいるか分からなくなってしまいうハプニングや読み間違えなどがたくさんありましたが、無事発表を終えることができたことに安堵しています。同グループの方からも面白い着眼点だったとの評価をいただいたことに嬉しく思います。

また、黒岩先生のシンポジウムではアドバンス・ケア・プランニング(ACP)やエンディングノートについて熱く語られており、近い将来私も直面するであろう親の介護の際には考える必要性を感じました。同シンポジウムの中では『安心』というワードが黒岩先生や他の演者の方からも出ていました。家で、地域で安心して暮らしていただけるために何が必要か、サービスが昔ながらのコミュニティーなのかなど、興味深く聞かせていただきました。

2日目の分科会講演では、「住まい・住まい方の見直しによる疾病・介護予防」という演題では住環境が健康状態へ及ぼす影響を数字としてみることができ、自身としても知見を広げることができたと思います。その後の「慢性疼痛」に対する分科会講演では、最新の痛みの定義や捉え方などを学ばせていただきました。各講演の内容を日々の仕事へと落とし込み、利用者にとってより良いサービスを展開していきたいと思います。

これらの講演や私の発表もコロナ禍の影響により、全日程がフルオンラインでの開催でした。長崎おおむら会場のライブ感や雰囲気を感じることができず残念ではありましたが、貴重な講演等を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

大会運営にあたり、様々な困難があったと思います。その中で大会を開催して下さったこと、参加させていただいたことに感謝申し上げます。二日間ありがとうございました。

まとめ

先行研究同様

当日の天気よりも前日から検査当日の朝にかけての気圧が高いとHDS-Rの得点も上昇する可能性があることが示唆された。

南魚沼特有の季節的変化のストレスを与えた環境下での検査により新たな発見がある可能性が期待できる。

ワクワクトークを通して

萌気園大和通所「地蔵の湯」 介護福祉士 上村 喜春



今年はフルリモート開催との事で、発表当日は地蔵の湯から ZOOM を用いての発表となりました。不安もありましたが何とか自信を持って発表する事ができました。6月から発表の準備を進め、本大会の発表まで黒岩先生や他の職員からアドバイスを頂きながら何とか発表を終える事ができました。

私の発表は『ワクワクトークを通して～利用者さんの心の変化について～』という演題でした。半世紀に渡り地域医療を支えて来た黒岩先生が介護事業所に出向き、馴染みの利用者さんと直接関わる事により、利用者さんと職員とのコミュニケーションの円滑化を目指してスタートした企画の結果発表でした。今回発表に参加されていたグループの中で、大井戸診療所の大澤先生より「地蔵の湯に泊まりに来て温泉に入った事がある」「とても良い所だった」との感想を頂戴し、参加者の中に自分が働く地蔵の湯という施設についてご存じの方がいらっしゃった事がとても嬉しく感じられました。

また他の方の発表内容についても、コロナウイルスに負けず様々な困難を乗り越えていく事業所の懸命な取り組みについてや、利用者さんがその人らしく生きられる様にその人の立場に立って難題に取り組む様子について等、グッと引き付けられ心を打たれました。

今回の発表への参加をきっかけに、他の発表者の方々の取り組みを参考にさせていただきながら今後の業務に取り入れ、利用者さんとのコミュニケーションに活かすことにより、サービスの充実に繋げていける様に励んで参ります。

考察

- ① 利用者さんへの歴史や背景への理解
- ② 心の変化(生活意欲の向上や、対人関係の進展)
- ③ 利用者さんへのかけがえのない存在としての尊敬
- ④ 触れ合いによる利用者さんの表情の変化
- ⑤ 職員のケアへの意欲の向上



テイクアウトランチ



9/17に今年の第2弾！テイクアウトランチを開催しました。

今回は清麟・小玉屋・松よしと3店舗の中から食べたい物を選んでいただきました。メニュー数が非常に多く、どれにしようかと選ぶのも楽しかったのではないかと思います。（職員はかなり悩んでいましたが、利用者さんは即決の方が多かったです…）

人気のメニューは清麟の海鮮ばらちらし・握り、小玉屋のヒレカツ重、松よしの天井そば弁当でした。

外食がしづらいご時世、お店の味を気の合う仲間と楽しく、美味しくいただき良い時間になったことと思います。

リハビリセンターは引き続き楽しい企画を計画中です。乞うご期待!!

萌気園通所リハビリセンター浦佐 大淵 真紀



南魚沼の花々(9月～10月)



敬老会

in 曼陀羅華・地蔵の湯

曼陀羅華では、賞状の贈呈と記念撮影、地蔵の湯では、職員によるマジックショーと踊りを披露しました。

地蔵の湯



マジックショー



職員の踊り



曼陀羅華



食料品・日用品の支援を必要とされる方が、時間や人目を気にせず、24時間都合の良い時間に食料品・日用品を取りに行ける仕組み！

9月1日より浦佐普光寺樺沢住職のご厚意により、普光寺社務所玄関に1台設置させていただいています。冷蔵庫に保存してある食料品等は高屋肖哲の「千児観音」チャリティー美術展での皆様方からの善意で購入させていただき、また南魚沼市社会福祉協議会様、医療法人社団萌気会の職員からの寄付により運営しております。

1カ月半がたち少しづつではありますが、食料品・日用品の支援を行えているように思います。設置してある「落書き帳」には感謝の言葉も綴られており、「フードロス」という言葉に目が止まりました。助け合いの支援の輪がフードロスという、いわゆる食べずに捨てられてしまう食品や食料を必要な方にマッチングさせることで食品ロスや無駄を無くすことができ「持続可能な開発目標SDGs」にも合致した取り組みにも繋がっていくものだと思います。

まだまだスタートしたばかりの取り組みです。お互いさまの気持ちを忘れずに私たちが目指しているモノ(食料品)とキモチ(感謝)が自然に交流、交換できる場所としての「みんなの冷蔵庫」を実現して行きたいと思ひます。

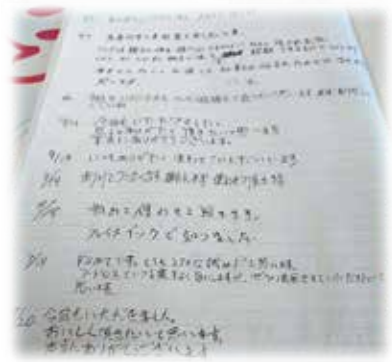
*冷蔵庫には、お米・乾麺・缶詰・瓶詰・乾物・レトルト・お菓子・デザート等・・・が保存してあります。

*24時間ご自由に必要な物をお持ち帰りください。

実行委員 田中 伊織



<https://www.facebook.com/moegien/>



萌気園老人ホーム 「すみれ草」

入居当初より、毎日欠かさずに洗濯物などをきれいに畳んでくださっております。手先が器用で手作業も進んで行っております。

すみれ草では、11月1日(月)に文化祭を開催いたします。そこでは利用者様や職員の作品を展示したいと思います。皆さん、張り切って作品の準備をしております。

ユキノさんの作品も数点展示致します。楽しみにしてください。

見学も予定しておりますがコロナ禍の為写真などで見ていただく場合もあります。ご了承ください。



事業所紹介 哲学があり、ナースの居る共生の家

コムはコミュニティ(地域社会)の略語 ソフィはフィロソフィ(哲学)の略語ナースは看護師です。

コム は地域社会作りに貢献することです。

コム・ソフィ＆ナースには社会福祉士、精神保健福祉士、ケアマネージャー、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士など様々な専門職があり、地域の福祉や介護のよろず相談を受け付けます。
(※私たちの地域密着型介護事業所は利用者さんに対するサービスだけでなく、利用者さんが地域生活を継続するための地域支援も業務として行うことができます)

ソフィ(哲学)とは？

高齢者が“老い”や“死”について語り、自分の物語を語れる場所になり、職員が人生を学ぶ場所を目指しています。

ナース

十人十色な看護師がいて、看護師が自宅へ訪問する事ができます。生活の中に看護師がいる事で安心して、病気や老いと上手に付き合いながら在宅での生活を送るお手伝いをします。

コム・ソフィ＆ナースは専属のケアマネージャーが利用者さんやご家族のニーズを把握して、通い・泊まり・訪問介護・訪問看護のサービスを組み合わせ提供いたします。

どのサービスも顔馴染みのスタッフが対応するので、安心感があります。

医療施設と在宅の架け橋となり、医療ニーズのある方や介護が必要な方が慣れ親しんだ家や地域で、身近な人たちに囲まれて暮らし続けることができるように、看護と介護が連携して支援いたします。



「脚本家がしたい」という利用者さんの希望で職員が劇をした様子です。



インフルエンザ予防接種のお知らせ

1.診療所 接種開始期日・時間・妊婦

診療所	接種開始	時 間	月～金	土曜	日曜	祝日	妊 婦
浦 佐 診療所	65歳以上 10月 4日(月)～	午前8:30～11:30	○	○	×	×	接種を受け ています
	65歳未満 11月 1日(月)～	午後4:30～ 5:30	○	×	×	×	
二日町 診療所	65歳以上 10月11日(月)～	午前8:30～11:30	○	○	○	○	
	65歳未満 11月 1日(月)～	午後4:30～ 5:30	○	×	×	×	

2.接種同意・同伴

年 齢	保護者等署名	保護者等同伴
20歳以上	不 要	不 要
18歳～20歳未満(高校生以外)	必 要	
1歳～18歳未満		必 要
0歳児:0歳	接種を受けておりません	



・18歳～20歳未満の高校生以外の方は同意書を持参いただければ、保護者同伴がなくとも接種可能です。(院内にご用意しています。また萌気会ホームページから印刷できます)。

3.接種料金

年 齢	区 分	接種回数	1回料金	合計料金
65歳以上①	南魚沼市在住 葉書あり ※保険証か免許証を持参願います	1 回	1,650円	1,650円
65歳以上②	一般(南魚沼市外など)		3,500円	3,500円
60歳以上障がい者	障害要件該当者		1,650円	1,650円
13歳～64歳	一 般	2 回	3,500円	3,500円
3歳～12歳	小児 ①		2,700円	5,400円
1歳、2歳	小児 ②		2,000円	4,000円

・65歳以上で南魚沼市以外にお住まいの方は受付にて予診票をお渡します。

4.注意事項

- ・来院する時はマスクの着用をお願いいたします。
- ・“インフルエンザ予防接種”専用の予診票を診療所に用意していますので、必ずお使いください。
専用の予診票以外は使用できません。
- ・ボールペンでご記入をお願いいたします。(鉛筆での記入は無効です)。
- ・あらかじめ記載した予診票をご持参いただきますと比較的スムーズです。
- ・新型コロナウイルス予防接種前後14日間は接種できません。
- ・浦佐診療所では一部WEB予約が可能です。HPで確認してください。
- ・二日町診療所の予約については只今検討中です。



萌気会 浦佐診療所 電話025-777-5222
萌気会 二日町診療所 電話025-778-0088

安心コラム

～藤井睦子さんからのお手紙～

Dr. Kuroiwa

残暑お見舞い申し上げます。千児観音美術展、最終7月5日午後、最後の入館者でした。一人でゆったりとした時を頂きました。美しい千児観音に、涙して参りました。
四枚の硬貨を並べ、その上に四枚の硬貨を重ね、四合わせになりましょうね、とつぶやきながら九・十枚を合わせて、私の最後の幸福でありますように!!...手を合わせてきました。
この美しい観音美術展に先生の優しさを胸いっぱい感じて参りました。深く感謝申し上げます。
萌気お便りでは「安心コラム」6月号、7月号とも楽しく拝見しました。「安心コラム」にもありましたように、浦佐診療所「水曜日」には、安心外来があるんですね。私の最も望んでいます所でございます。
これからは夫も大病をもっていますが、私の身を在宅療養診療で、少なくとも二年間は見守って頂きたく、過日先生にお手紙での緩和ケアで、痛みや不快な症状を和らげる質問をいたしました。
感動のお返事を頂き、安心致しております。10月に入られましたら「安心外来」予約をお願い致したく、宜しくどうぞ!!

柔肌の 胸の病いを 愛でながら 萌気の恩師へ 命あずけて(睦子)



すごい達筆の方で私も敬意をいただいている方です。

この文面にわたしの歌もほめてくれました。この歌は今年4月私の誕生日を祝ってくれた職員への感謝を込めたものです。

花あふれ 生れ日ありや 今在りし 萌気の友よ 永遠に華やげ(卓夫)



編集後記

小規模多機能ホーム さくりの郷 小川 優子

とても秋らしい空気になってきました。敬老の日やお彼岸はどのようにお過ごしでしたでしょうか?紅白饅頭を頂いたり、おはぎを仏様にお供えしたりした方もいらっしゃるのではないでしょうか。
時が過ぎるのは早いもので、もう今年も後3か月となりましたね。朝晩とても涼しくなってきた、毛布や厚地の掛布団に包まる時もあるのではないのでしょうか?

そんな中、萌気会の各介護事業所では敬老会やテイクアウトラ

ンチ等、コロナ禍の制限下で可能な限りの催しを行い、少しでも利用者さんに喜んでいただけるように取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の終息がまだ計り知れない中、また冬がやってきます。インフルエンザの感染にも気を付けなければなりません。巻末に予防接種のご案内を載せてありますのでご覧いただきたいと思います。

皆さまのご健康を心より願っております。